

PHD 夏のスタディツアー

Peace, Health & Human Development
平和と健康を担う人づくり



ピンタリ村（ネパール）



助産師として働き始めた
ミンクマリさん（2010年度・ネパール）



水力を使って日中は製粉機をまわし、
夜は発電をして家に明かりを灯す（ネパール・ピンタリ村）

日本で学んで帰った研修生たちに会いに行こう！
～研修生たちの村を訪ね、村での生活・活動から学び合いましょう～



マラリア感染チェックをする
ティダさん（2007年度・ミャンマー）



村でいただくご飯（ミャンマー）



村の子どもたちとの交流（ミャンマー）

第22回 ネパール・スタディツアー 7月26日朝～8月5日早朝（10泊11日）

第13回 ミャンマー・スタディツアー 8月20日深夜～30日早朝（10泊11日）

詳しいパンフレット、申し込み用紙を
お送りします。

公益財団法人 PHD 協会
〒650-0022 神戸市中央区元町通 5-4-3 元町アーバンライフ 202
電話：078-351-4892 FAX：078-351-4867
Email：info@phd-kobe.org URL：http://www.phd-kobe.org

第 22 回ネパール・スタディツアー

◆2つの農村で農家民泊をし、ネパールの生活を学びます！

今年はカトマンズ東部のカブレパランチョーク郡、ピンタリ村とガハテ村を訪問します。

ピンタリ村は自分たちで小規模水力発電を作り、電気を自給。またほとんどの食べ物を自給するなど、自給自足の一つのモデルと言えます。今回はピンタリ村周辺の新しい村で研修生の選考を行います。ピンタリ村訪問には国際的に活躍するファシリテーターであるカマル・フィヤルさんが同行する予定です。

ガハテ村からは今までに5人の研修生を招聘してきました。そこで今後はフォローアップに力を入れて、帰国した研修生とともに村を良くする活動を始めていきたいと思っています。状況は厳しいですが、パッサンさん（11年度）を始め、がんばっている研修生に会いに行きませんか？



【日 程】7月26日朝集合～8月5日早朝（10泊11日・関西国際空港発着）

【参加費】当会会員 215,000 円（新規会員 220,000 円 + 会費 5,000 円）＊海外旅行保険、燃料チャージ、査証代込
※学生割引：先着2名に限り1万円割引有り（詳細はお問い合わせ下さい）

【申込締切】6月18日（水）

【事前説明会】7月5日（土）10時～

第 13 回 ミャンマー・スタディツアー

◆ミャンマーでがんばる帰国後の研修生に会いに行きませんか？

昨年度から再開し、ご好評いただいたミャンマーツアー。主に第2の都市マンダレーの近郊にある2つの農村、タダインシェ村とイエボ村を訪ねます。

今年はイエボ村で研修生の選考を行います。その選考に立ち会っていただき、また帰った研修生の活動を見学します。例えばモーママさん（13年度）の帰国後の活動見学や、村の女性やボランティアグループとの話し合いを予定しています。また農業をがんばる研修生たちは、近代化の中で新たな課題に直面しているようです。今年は村での時間を長くとりまので、研修生たちの帰国後のがんばりや苦悩をじっくりと体験していただくことができます！ぜひご参加ください。 ※宿泊は全てホテル泊となります。



モーママさん

【日 程】8月20日深夜集合～8月30日早朝（10泊11日・関西国際空港発着）

【参加費】当会会員 230,000 円（新規会員 235,000 円 + 会費 5,000 円）＊海外旅行保険、燃料チャージ、査証代込
※学生割引：先着2名に限り1万円割引有り（詳細はお問い合わせ下さい）

【申込締切】6月25日（水）

【事前説明会】7月12日（土）14時～

□ 旅の目的

- ＊村の生活を体験し、村びととの交わりを深める。
- ＊日本で学んだ PHD 研修生の活動現場を訪ね、活動の状況を知り、国際協力、開発のあり方を考える。
- ＊旅の経験から、日本との関係を知り、日本の生活を振り返りこれからの自分の行動を考える。
- ＊次年度の研修生の選考に立ち会う。

□ 募集人数

各13名。申込み多数の場合、当会研修指導者・研修生滞在家庭の方を優先させていただきます。

□ 参加資格

当会の趣旨を理解し、旅に適応できる体調の方。

小学校高学年以上。PHD 会員ではない方は、入会手続きをしていただいてから（年会費5,000円）ご参加下さい。

□ 旅行企画・実施

（株）トラベルファイブジャパン（国土交通大臣登録旅行業823号）

□ 企画

（公財）PHD 協会

PHD 協会とは

1962 年から約 20 年間、ネパールを中心に医療活動に従事した岩村昇医師が、自らの経験と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を越えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して 1981 年 6 月に設立。Peace（平和）、Health（健康）、Human Development（人づくり）の頭文字をとって名づけられた草の根の人々による国際協力・交流の活動をしている団体です。